

年月日	17	01	20	ページ	19	NO.	
-----	----	----	----	-----	----	-----	--

内見ニーズVRで再現 日本財託

日本財託（東京都新宿区、重吉勉社長、03・3347・2411）は、コンピュータ上に仮想の空間を作り出す仮想現実（VR）技術を用いた賃貸住宅内見サービスを始めた。春の引っ越しシーズンを前に、住宅を内見する時間に取りにくい転勤者などを主な利用者として想定している。「VR内見サービス」は、候補となる物件を同社スタッフが全天球カメラで撮影し、VRコンテンツに加工した上で提供する。コンテンツはパソコンやスマートフォンを使って閲覧する。複数の部屋を360度見回しながら、現地にいるような感覚で物件を選べる。同社によると、転勤に伴う借り上げ住宅探しは、およそ4人に1人は現地を訪れる前に物件を決める。内見に

要する時間や費用が確保しにくい企業・社員
のニーズにこたえる。